

研究課題名	新型コロナウイルス肺炎患者の人工呼吸器関連下気道感染症のリスク因子の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗
研究期間	許可日～ 2025年 3月
対象者	2020年1月から2024年12月の間に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と診断され侵襲的人工呼吸を広島大学病院救急集中治療科で受けられた患者さん。
意義・目的	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は依然として世界的パンデミックにあり、その肺炎による急性呼吸窮迫症候群（Acute Respiratory Distress Syndrome: ARDS）は長期の人工呼吸期間、入院期間など施設・医療経済に与える影響が大きいのが現状です。これまでの海外の研究で、COVID-19によるARDS患者では人工呼吸器関連下気道感染症（Ventilator-Associated Lower Respiratory Tract Infection: VA-LRTI）や人工呼吸器関連肺炎（Ventilator-Associated Pneumonia: VAP）の発症が非COVID-19に比べて多い可能性があること、またICU滞在期間の延長や死亡率の上昇に関連する可能性が示されています。一方で日本においてはCOVID-19とVA-LRTIの疫学情報や関連性を評価した報告はありません。本研究はこのknowledge gapに関して、単施設後方視研究によって検証することを目的とします。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は年齢、性別、日付（発症、SARS-CoV-2検査陽性、自宅/ホテル療養開始、入院、ICU入室、広島大学入院、広島大学ICU入室、気管挿管、抜管、VA-LRTI診断・治療、筋弛緩、腹臥位、ECMO、再挿管、気管切開、ICU退室、退院、死亡）、体重、各種スコア（SAPS2、APACHE2、Charlson Comorbidity Index、P/F）、免疫抑制状態、過去の医療への暴露（慢性透析、入院、抗菌薬投与、耐性菌保持）、気管挿管チューブの種類、抗消化管潰瘍薬、腎代替療法の有無、COVID-19治療（ステロイド、レムデシビル、ファビピラビル、トシリズマブ、バリシチニブ、抗菌薬）、当院ICU入室24時間の呼吸管理データ（腹臥位、ECMO、PEEP、吸気圧、一回換気量、ノルアドレナリン投与速度）、退院時転帰、退院時の人工呼吸器依存、人工呼吸期間、VA-LRTI診断基準、VA-LRTIへの抗菌薬、VA-LRTI関連合併症（再燃、持続菌血症、膿胸・肺膿瘍、Clostridioides difficile感染症、真菌血症）、VA-LRTI治療中の筋弛緩・深鎮静・ECMO・ステロイド使用・レムデシビル・トシリズマブ・バリシチニブ投与期間です。 （個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 志馬伸朗
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心く

ださい。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-4532

広島大学病院救急集中治療科 大学院生 石井潤貴 / 教授 志馬伸朗